

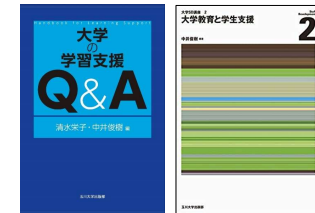
## 学習支援活動の現状と課題

清水栄子 (追手門学院大学)

### 自己紹介

#### 清水栄子

- (しみずえいこ)
- 広島県出身
- 追手門学院大学・共通教育機構／教育支援センター
- 高等教育、アカデミック・アドバイジング、教職員能力開発
- 日本アカデミック・アドバイジング協会会長、初年次教育学会理事



2

### 話題提供のねらい

- 学習支援担当者が目指すよりよい学習支援とはどのような支援なのでしょうか。本話題提供では、『大学の学習支援 Q&A』の作成過程等で得られた知見を基に、学習支援の事例を紹介する中で、望ましい学習支援の在り方を模索するための課題を抽出したいと思います。

3

### 構成

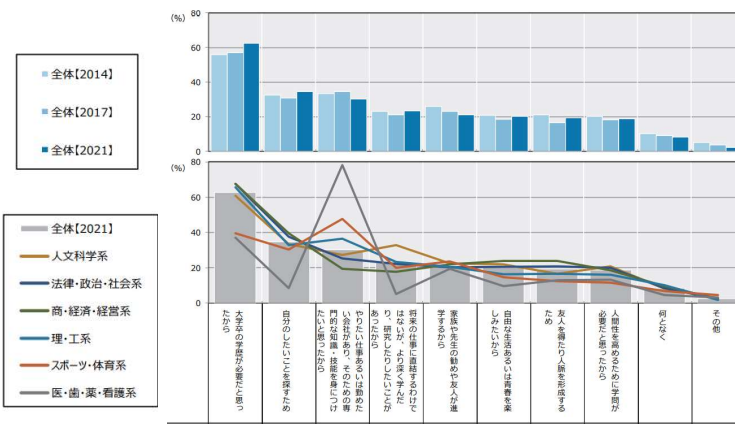
- 学生の現状
- 学習支援活動の現状
- 学習支援活動の課題

4

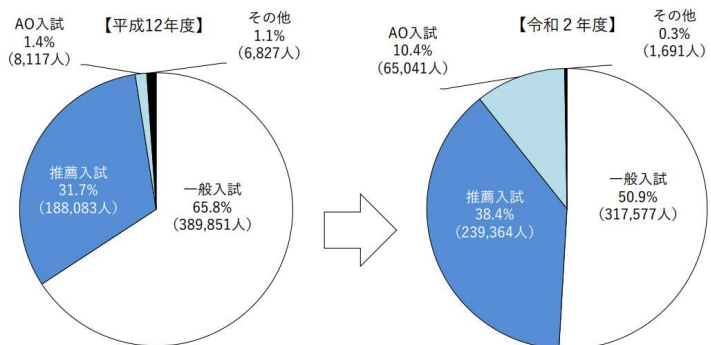
## 学生の現状

- 大学入学の目的はさまざま
- 約半数がAO入試・推薦入試を選択
- 1日の生活時間
- 学生の抱えている不安・悩み
- 学生による支援の利用状況

## 大学進学のための目的



## 入試実施状況(2000年、2020年)



(入学者計: 592,878人) (入学者計: 623,673人)

□ 一般入試 ■ 推薦入試 □ アドミッション・オフィス入試 ■ その他

(注) 「その他」: 専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など

【出典】 令和2年度国公私立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要

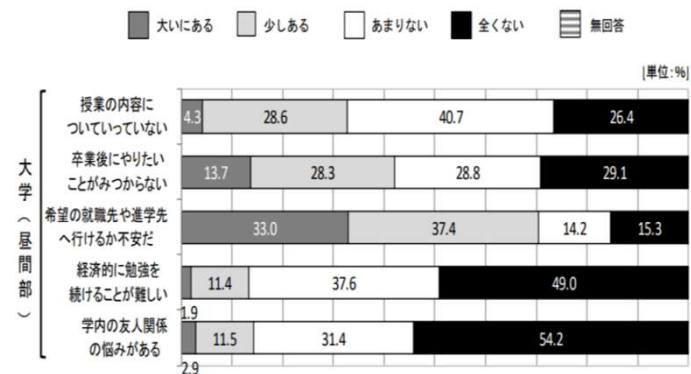
## 生活時間(1週間あたり)

●「授業時間」が大幅減、「課題」は微増で、「自主的な学習」は変わらず

◆次の項目は1週間(月曜日～日曜日)で何時間くらいになりますか。



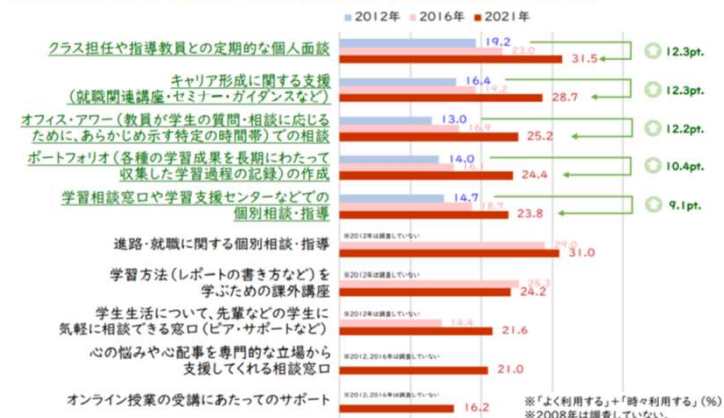
## 学生の不安・悩み



(日本学生支援機構, 2022) 9

## 学生の支援環境の利用状況

◆あなたは、次のような学生に対する支援環境をどの程度利用していますか。



(ベネッセ教育総合研究所, 2022) 10

## 構成

- 学生の現状
- 学習支援活動の現状
- 学習支援活動の課題

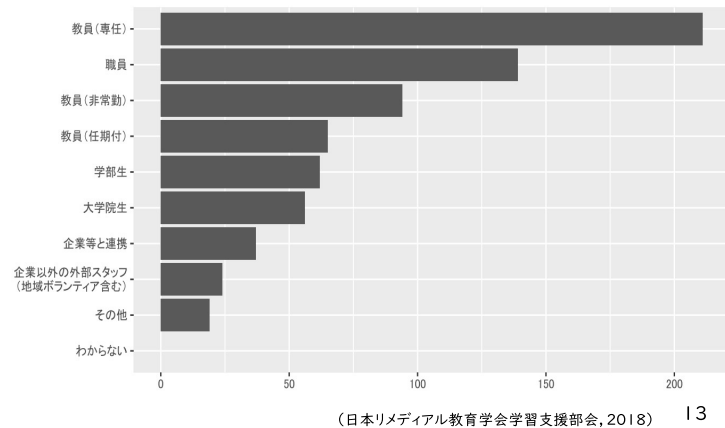
11

## 学習支援の担当者

- 学部・学科の教員
- 学習支援センターなどの専門組織の教職員
- 教務・学生支援系の職員、キャリア支援系の職員
- 専門に学習支援を担う専門職(教員・職員)
- 学生(ピアチューター、ピアサポーター)
- 外部委託

12

## 学修(習)指導に直接関わるスタッフの構成



## 学習支援の組織体制(1)

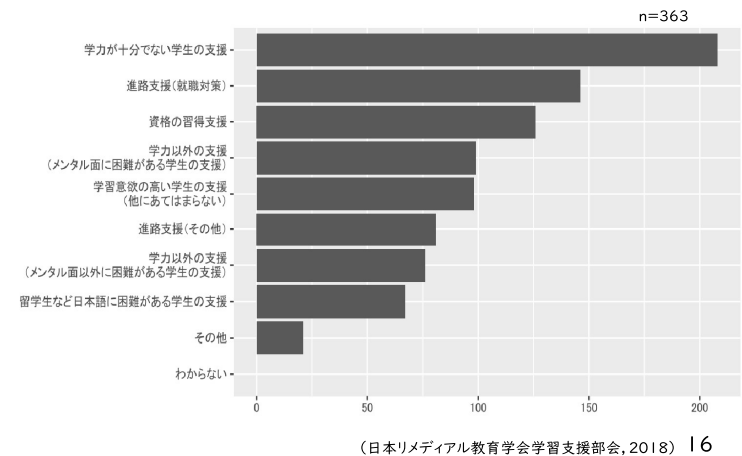
- 学部・学科
    - ・学部・学科に所属する教員や学生が支援を担当する  
例: クラス担任制、新学期オリエンテーションなど
  - 専門組織
    - ・ある支援に特化した専門組織に所属する教職員や学生が支援を担当する  
例: 学習支援センター、ライティングセンターなど
  - 事務系組織
    - ・教務・学生支援、キャリア支援系の事務組織による支援  
例: 窓口対応、履修方法・単位修得状況の確認、ガイダンスの実施、情報提供など
- 14

## 学習支援の組織体制(2)

- 連携・協働型
  - ・学部・学科と専門組織、学部・学科と事務系組織、専門組織同士が連携・協働して学生の支援を担当する  
例: 履修相談、オリエンテーション、レポートの書き方講座など

15

## 学習支援の目的



## 学習支援の方法と形態

- 方法
  - ・面談（個別／グループ）
  - ・集団指導 ガイダンス、オリエンテーション
  - ・情報提供
  - ・学生が自由に利用できる学習環境の提供・整備
- 形態
  - ・対面
  - ・オンライン（E-mail、SNS）
  - ・電話

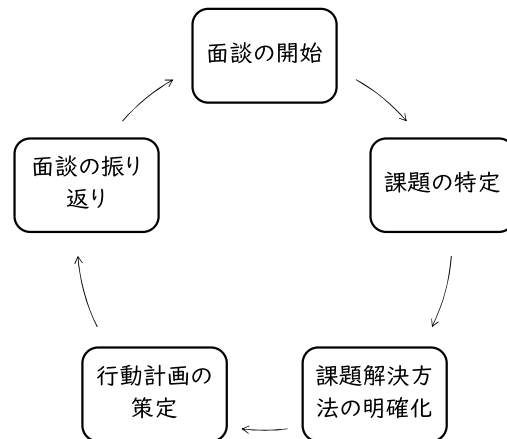
17

## 面談の内容（例）

- 履修関係
  - 「先生、履修はこれで大丈夫かどうか確認してください」
  - 「これで基礎科目の単位、足りてますかね？」
- 学修状況
  - 「朝起きれなくて、授業に出席できません」
- 退学・編入学
  - 「大学を辞めたいんですけど…」
- 分野選択
  - 「〇〇と〇〇の分野で迷っているんですけど…」
- キャリア関連
  - 「将来、どの職に就こうか迷っているんですけど…」

18

## 面談のプロセス



（清水、中井編，2022） 19

## 面談の開始

- 学生の情報を確認する
  - ・成績表
  - ・出席状況
  - ・履修登録科目
  - ・事前アンケート
  - ・過去の面談記録
- カリキュラムなどを確認する
- 快適に面談できる状況を整える
- ルールを決めておく-面談の進め方

20

## 面談のルール(例)

- ・1回の面談時間は原則として30分以内にする
- ・学生は、面談内容に関する資料を持参(または事前に送付)する
- ・学生は、課題解決について学習支援者任せにせず、自らも積極的に考えるように努める
- ・面談の目的は原則として、学習に関わる課題や悩みの解決を支援することに限る
- ・学習支援者は、学生が安心して相談できるように努める
- ・学習支援者は、問題の考え方を説明し、答えそのものは教えない
- ・学習支援者は、面談で知り得た学生についての個人情報第三者に口外しない
- ・学習支援者は、必要に応じて他部署への取り次ぎを学生に提案する場合もある

(清水・中井, 2022) 21

## 課題の特定

- 何を課題と考えているのか引き出す
  - ・自分の言葉で話してもらう
  - ・学生の考えの整理、解決の道筋になる場合もある
- 傾聴
  - ・否定しない、あいづち、うなずき、明確な言葉に変換
- 質問で課題の整理
- 課題に影響を与えている原因の特定
- 本当の課題の明確化

22

## 課題解決方法の明確化

- 学生の考えを引き出す
  - ・課題の解決方法も学生自身に考えるよう促す
  - ・「それ以外の方法ありませんか」
- 学生が気づかない解決方法を選択肢の一つとして提示
  - ・「このような方法もあるのではないですか」
- 学生の課題が対応できる範囲を超える場合
  - ・正直に伝える
  - ・専門家の協力を得るという選択肢
- さまざまな課題解決方法から選択
  - ・解決方法の持つ短所と長所を学生と確認

23

## 行動計画の策定

- 具体的な行動計画への落とし込む
- スモールステップ
  - ・大きな課題は小さな課題に分けて計画的に
  - ・「やればできそう」という自己効力感
- 必要に応じて次回の面談の予定
  - ・「1週間後に学習の状況を確認してみましようか」
- 学生が自分の言葉で計画の実行を約束する
- 時間に余裕があれば、学習の一部をその場で始める

24

## 面談の振り返り

- 面談の終わり方を考えておく
  - ・面談を振り返り、学生のその後の行動につながる貴重な時間
- 明らかになった課題と課題解決に向けた行動計画と行動への意思を確認する
  - ・学生の理解を確認
- 励まみやねぎらいの言葉をかけて送り出す
- 面談について記録する
- 大学の問題に気づいたら関係者に報告する

25

## 面談しやすい関係と信頼を築く

- 笑顔で挨拶をする
- 学生に共感を示す
- 学生の名前を覚えておく
- アイコンタクトをとる
- 学生に関心をもつ
- ノンバーバルなメッセージに気を付ける
- 正確な情報を把握しておく
- 学生の利益を第1に考える、学生のために行動する
- 面談の目的を明確にしておく
- 分からないことは分かっているふりをしない
- 学生の話を傾聴する

(University of Wisconsin, 2017) を参考に作成 26

## オンライン面談時の工夫(1)

- 面談の開始前
  - ・Zoom等のオンライン会議システムの使用方法を学生に説明しておく
  - ・基本的に対面よりも情報伝達が限定的となる
  - ・面談の最初に挨拶なども兼ねてマイクの聞こえ具合を確認する
  - ・ゆっくり話すこと、文末まで丁寧に発音することを心がける

(清水、中井編, 2022) 27

## オンライン面談時の工夫(2)

- 面談中
  - ・お互いの行動を把握することが難しいことを念頭に入れておく
    - 例:「〇〇さんが書いてきたレポートを今から確認しますね」と学生に伝えておけば学生は安心する
  - ・基本的にカメラはonにする
  - ・表情が相手に伝わる為、対面の時よりも笑ったり驚いたりの変化を意識して学生が話しやすくなるようにする

(清水、中井編2022) 28

## オンライン面談のメリットとデメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ログインするだけで、アドバイザーと会話ができ、移動する必要がない</li> <li>・対面と変わらない</li> <li>・対面が苦手な学生も利用できる</li> <li>・マスクをしなくてもよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーには課題がある。例：寮でルームメイトと住んでいる場合は、話しにくい内容がある</li> <li>・対面よりも会話が掘り下げにくい</li> <li>・対面よりも深い関係を築くことが難しい</li> </ul>

The Stanford Daily (2021.11.2)を参考に作成 29

## 構成

- 学生の現状
- 学習支援活動の現状
- 学習支援活動の課題

30

## 学習支援活動の課題

- 運用面での課題
  - ・来てほしい学生が利用してくれない
  - ・学生の主体性を促すために、どこまで支援を行うべきなのか、判断が難しい
  - ・学生情報にアクセスできない場合がある
  - ・学習支援に特化した研修機会が少ない
- 組織的課題
  - ・校内での認知度が低い(学生・学内関係者)
  - ・連携・協働による支援ができていない
  - ・専門職が任期付き採用の場合、支援の継続性が難しい
  - ・学習支援による成果の可視化が難しい

31

## 参考文献

- 清水栄子、中井俊樹編(2022)『大学の学習支援 Q&A』玉川大学出版部
- 全国大学生協連(2022)『第57回学生生活実態調査 概要報告』  
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>
- 文部科学省(2021)『個別選抜の実施状況等』[https://www.mext.go.jp/content/20210621-mxt\\_daigakuc02-000016052\\_10.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210621-mxt_daigakuc02-000016052_10.pdf)
- 日本学生支援機構(2022)『大学等における学生支援の取組状況に関する調査(令和3年度(2021年度)結果報告』
- 日本私立大学連盟(2022)『私立大学学生生活白書2022』  
<https://www.shidairen.or.jp/files/user/20221011gakuseihakusho.pdf>
- 日本リメディアル教育学会学習支援部会(2018)『学修(習)支援の実施状況に関するアンケート』
- ベネッセ教育総合研究所(2022)『第4回 大学生の学習・生活実態調査報告書 データ集 [2021年]』  
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail.php?id=5772>
- Gordon V. N. (1992) *Handbook of Academic Advising*, Greenwood Pub Group
- MacDonald, R. B. (1994) *The Master Tutor: A Guidebook for More Effective Tutoring*, Cambridge Stratford Ltd
- The Stanford Daily 2021.11.2<https://www.stanforddaily.com/2021/11/02/zoom-meetings-gain-popularity-over-in-person-academic-advising/>
- University of Wisconsin (2017) *Academic Advisor Handbook*<https://www.uwsuper.edu/advise/resources/upload/Academic-Advisor-Handbook.pdf>

32